

短歌のつくり方「億万智さんから学ぶ」(保護者の皆様へ) ③—1 ニュージャージー補習授業校 (十二月十五日)

億 万智・著「考える短歌」(新潮新書083)を読み解き、子ども達へのアドバイスの仕方を提示します。

『国語便覧』(改訂版)浜島書店 は中等部の生徒が授業で使っています。その一五五ページに「短歌をつくってみましょう」というコラムに『考える短歌』が紹介されています。以下の作品は大人がつくったものを億さんが添削しました。

子ども達が、短歌をつくってきたら、以下のような視点で作品を見てやってください。そして、さりげなくアドバイスをしてやってください。原則は、短歌一首につき一つの技巧をいれることです。億さんが具体的に添削をしています。

【ポイント1】主観的な形容詞は避ける。↓形容詞に頼れば思いは読者に伝わらない。(作文・俳句・詩も同じ)

← 「美しい」とせず、様子や状況、顔つきなどを描写(スケッチ)する。気持ちではなく行動をかく。

さりげなく「好き」のかけらを渡す我風邪ひきし君にのど飴ふたつ 沖縄県 沙羅

← (形容詞の「さりげなく」を使わない)

○バレンタインに「好き」のかけらを渡そうか風邪ひきし君にのど飴ふたつ

【ポイント2】副詞は使わない。↓新しい表現にならない。自分の表現にならない。(作文・俳句・詩も同じ)

吐く息が白くなったとふと気づくあなたのいない冬はもうそこ 山梨県 依田真弥

← (副詞の「ふと」を使わない)

○吐く息が白くなったと気づくときあなたのいない冬はもうそこ

【ポイント3】句切れを使おう。↓全体のリズムが引き締まる。散文的な印象も薄まる。

金がなくて浮いた話もあんまりで道に寝ている自分を笑う 高槻市 綿田一郎

← (スペース的に文語「おり」を使い句切れとする。「自分を笑う」が切なく表現される)

○金がなくて浮いた話もあんまりで道に寝ており／自分を笑う

【ポイント4】数字を使おう。↓数字を使うと読み手のイメージが鮮明になる。(作文・俳句・詩も同じ)

○空見上げ三秒間の逃避行(ころ)飛ばして日常へ戻る 二島市 高屋由美子

○たわむれに君の香水つけてみる二十四時間寄りそうように 東京都 竹原美幸

【ポイント5】現在形を使おう。↓新鮮で強烈な印象を与える。リアルな表現になる。(作文・俳句・詩も同じ)

○夕暮れにキヤベツ切る手がふと止まり蘇りくる君のくちびる 松江市 水色うさぎ

○体温計くわえて窓に額つけ「ゆひら」とさわぐ雪のことかよ 穂村弘

○「手を繋ぎたくない」なんて言ったのは「好き」の気持ち汗になるから 東京都 濱村 愛

【ポイント6】色彩を使おう。↓イメージが鮮明に伝わる。印象的な作品になる。(作文・俳句・詩も同じ)

「愛して」というわがままな落書きの下が僕らの待ち合わせ場所 神戸市 飛来

←

○「愛して」という真っ青な落書きの下が僕らの待ち合わせ場所

かきあげる仕種がいいな黒髪を際立たせる腕の白さが

東京都 木村順人

← (黒と白の色の対比が効果的です)

○かきあげる仕種がいいな黒髪をより黒くする腕の白さよ

【ポイント7】固有有名詞を使おう。↓持っているイメージや歴史等の情報量が多いのでイメージが浮かびやすい。

(作文・俳句・詩も同じ)

君笑うタイミング知り幸福な映画館にてこれからを見る

千葉市 鈴木真末

↑ (日本映画で有名な「寅さん」の登場でイメージが鮮明になる)

○君笑うタイミング知り幸福な映画館にて寅さんを見る

【ポイント8】会話体を活用しよう。↓生き生きとした表現ができる。(作文・詩も同じ)

○「愛してる」なんてセリフはもたれるし「じゃあな」「またな」に揺れたりする

東京都 のり子

○「雪が見たい」「なら見に来れば」簡単に行かれっこない受話器の向こう

神奈川県 菜穂

「Miss me ?」の答えは短くてあいまいで悲しすぎるよ君の「Maybe」

イギリス 春澄

↑ (【ポイント1】より形容詞は使わない。顔や状況を描写する)

○「Miss me ?」の答えは「Maybe」逆光に輪郭だけの君の横顔

【ポイント9】比喩(たとえ)を入れよう。↓読者に作者の気持ち伝わる。(作文・詩も同じ)

○大文字で抱える疑問あらねども白黒の夢ばかり見るなり

茨城県 関 裕之

○ほしいのはメトロノームだ 不確かなリズムを紙にしるすとしても

広島市 久永 佳緒里

○板チョコのようなたんぼの真ん中にナッツの形の墓石ふたつ

堺市 一條 智美

俵 万智 著 『考える短歌』 作る手ほどき、読む技術

(新潮新書〇八三) 新潮社 平成十六年(二〇〇四年) 九月二十日 発行

歌人である俵万智さんが書いた「文章読本」です。短歌として思いを正しく伝える方法を述べています。

短歌上達法は、以下の点にあると主張しています。(屋敷私見)

- ① 優れた先人の作品に触れること。
- ② 自作を徹底的に推敲吟味すること。
- ③ ちよつとした言葉遣いに注意すること。
- ④ (ドライバーが運転技術を習得するように)短歌を作る技術を習得すること。

*短歌を作るだけでなく、普段の初等部・中等部の国語の「読解」の授業にも役立つ内容が含まれています。

日々のできごとや思いを、そのまま素直に、短歌として書きとめるにも、やはり、ある程度の言葉の技術は必要だ。(中略)

この「考える短歌」で、私が試みてみたいのは、短歌を作るうえでの「言葉の技術」を、どこまで伝えられるか、ということだ。そのためには、抽象的な理屈を並べるのではなく、なるべく具体的な方法をとりたい。(後略)

「はじめに」より

なお、海外子女教育振興財団の海外文芸作品コンクール「短歌の部」の本審査員は、俵万智さんの師匠である、歌人の佐佐木幸綱氏であることもお伝えします。

(校長)